



ライセンス第1委員会（委員数 31名／担当：小林常務理事）

◆ 委員会構成

委員長 1名、副委員長 10名、委員 20名：計 31名

3小委員会体制

◆ 活動方針

ライセンス契約を含む技術関連契約等に関する国内外の実務上の課題に対する検討、要求度の高い情報の収集と整理、さらにこれらに基づく報告、提言を行うことにより、会員企業の当該契約実務に貢献する。

◆ 内容の概略

第1小委員会：DX（デジタルトランスフォーメーション）時代の知的財産契約の実務

第2小委員会：スタートアップとのオープンイノベーションにおける知的財産契約の在り方

第3小委員会：知財交渉における仲裁機関の利用実態と活用方法

◆ その他の活動

- ・ 特許庁・審査官ライセンシング研修（予定）
- ・ 日本知的財産仲裁センター意見交換会（予定）





ライセンス第1委員会第1小委員会（委員数 10名）

◆ テーマ名

DX（デジタルトランスフォーメーション）時代の知的財産契約の実務

◆ 狙い

DXにより変化が見込まれる知的財産契約実務において、業務効率化の先を見据えた、付加価値の高い業務へのシフトUPを提言する。

◆ 内容の概略

- ① 各社におけるDX推進状況と、その障壁に関する実態を把握する。
- ② 次の時代へ向けた知的財産契約実務のあるべき姿を検討し、高付加価値業務（仮説：重要な契約交渉、新規事業分野の契約等）へシフトするためのステップを提言する。

◆ アウトプット&スケジュール

知財管理誌への論説の投稿（単年度にて完成予定）





ライセンス第1委員会第2小委員会（委員数 10名）

◆ テーマ名

スタートアップとのオープンイノベーションにおける知的財産契約の在り方

◆ 狙い

スタートアップ（SU）連携の過程で締結される知財契約に関する課題抽出と、その解決策を考察することで、SU連携を通じたオープンイノベーションを成功に導く知的財産契約の在り方を提言する。

◆ 内容の概略

- ① SUと事業会社でよく締結される共同研究契約に着目し、特許庁のモデル契約書（素材・A I）を端緒に、SU連携に必要なリテラシー、SU交渉のポイント、Win-Win条項等について検討する。
- ② 外部有識者へのヒアリングも行って、検討内容の妥当性を検証する。

◆ アウトプット&スケジュール

知財管理誌への論説の投稿（単年度にて完成予定）





ライセンス第1委員会第3小委員会（委員数 10名）

◆ テーマ名

知財交渉における仲裁機関の利用実態と活用方法

◆ 狙い

仲裁・調停など現状、利用率の低いADRについて、企業の利用実態等を調査し、企業に価値あるADR活用のユースケース等を検討し提言する。

◆ 内容の概略

- ① ライセンス委員会内のアンケートや企業ヒアリングを通じて、企業のADR利用実態や、各企業におけるADRへの考え方を把握する。
- ② ADR情報をライセンス委員会内に周知すると共に、企業が効果的にADRを活用できるようなユースケースを検討し提言する。

◆ アウトプット&スケジュール

知財管理誌へ論説投稿又は委員会内レポート（単年度にて完成予定）
JIPACとのコラボ企画（ADR研修、JIPACシンポ模擬調停）の実施

